

新しくサロン活動に参加した者の生活機能・組織参加状況の変化

研究分担者 平井 寛（山梨大学大学院総合研究部生命環境学域 生命環境学系
地域社会システム学 准教授）

研究要旨

本報告では武豊町「憩いのサロン」の参加者を対象とし、参加するサロンによってプロセス（中間的な効果）に違いがあるかを探索的に検討した。

2011年度から2012年度のサロン新規参加者にどのような変化があったかを、日本老学的評価研究(JAGES)プロジェクトの一環として2010年、2013年に武豊町の自立高齢者を対象とし行った自記式調査のデータを結合して作成したパネルデータを用いて分析した。パネルデータの2時点の回答者は3160名であった。このうち2010年度に5回以上の参加がなく、2011年度、2012年度に5回以上の参加がある者を新規参加者とした。2011-2012年度の参加者は312名でこのうち新規参加者は121名、継続参加者は191名であった。目的変数は高次生活機能については基本チェックリストの「請求書の支払いができるか」、「預貯金の出し入れができるか」、「年金などの書類が書けるか」が維持できるか、とした。組織参加状況の違いについては、ボランティア、老人会、スポーツの会、町内会、趣味の会の不参加が参加するという変化があるか、とした。無回答は参加なしとした。関連要因として、高次生活機能については、サロンで毎回行われる基本プログラムの「脳トレ」の有無、地域組織参加の変化については、当該サロンの継続参加者の組織参加割合の関連を検討した。

目的変数とした高次生活機能の3項目の変化はどれも小さく、脳トレ「あり」サロンの新規参加者で機能を維持できなかった者はいなかった。脳トレ「なし」の新規参加者では、「年金などの書類が書けるか」で4人、「請求書の支払いができるか」で1人が機能を維持できていなかった。地域組織の参加については、多くのサロン新規参加者で地域組織への参加者が増加しているものの、サロンの継続参加者割合との関連は明らかではなかった。サロン新規参加者のサンプル数を増やし統計的分析を安定させるため、他の時期のパネルデータも活用した分析が必要になると考えられる。

A. 研究の背景と目的

武豊町「憩いのサロン」の参加者は主観的健康感が良く（Ichidaら2013）、要介護を減らす、認知症を減らすという成果が報告されてきている（Hikichiら、2015、2017）が、参加が健康に影響を与えていく

プロセスの解明は未だ十分ではない。武豊町「憩いのサロン」は2010年の時点で8つの会場で行われており、プログラムや参加者はサロン毎に異なる。サロン間で参加が健康に影響を与えていくプロセスの違いを検討することで、どのようなプログラムが参

加者に影響を与えているのかを考える手がかりとなると考えられる。また武豊プロジェクト構想時の理論仮説においては、サロンへの参加がソーシャルネットワークやサポートを豊かにする、心身の活動性が高めることによって健康に良い影響を与えることが想定されている。同じサロンにどのような人が参加しているかによっても、プロセスに違いが表れると考えられる。

本報告では武豊町「憩いのサロン」の参加者を対象とし、参加するサロンによってプロセス（中間的な効果）に違いがあるかを探索的に検討した。特に今回は、各サロンの参加者間で高次生活機能（基本チェックリストの一部）、組織参加状況の変化に違いがあるかを検討した。

B. 研究方法

データは日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクトの一環として2010年、2013年に武豊町の自立高齢者を対象として行った自記式調査のデータを用いた。

2011年度から2012年度のサロン新規参加者にどのような変化があったかを、2010年調査データと2013年調査データを結合して作成したパネルデータを用いて分析した。パネルデータの2時点の回答者は3160名であった。このうち2010年度に5回以上の参加がなく、2011年度、2012年度に5回以上の参加がある者を新規参加者とした。2011-2012年度の参加者は312名でこのうち新規参加者は121名、継続参加者は191名であった。

目的変数は高次生活機能については基本チェックリストの「請求書の支払いができるか」、「預貯金の出し入れができるか」、「年金などの書類が書けるか」が維持できるか、とした。組織参加状況の違いについては、ボランティア、老人会、スポーツの会、町内会、趣味の会の不参加が参加するという変化があるか、とした。無回答は参加なしとした。

関連要因として、高次生活機能については、サロンで毎回行われる基本プログラムの「脳トレ」の有無、地域組織参加の変化については、当該サロンの

継続参加者の組織参加割合の関連を検討した。基本プログラム内容については武豊町地域包括支援センターから各年度の年間予定表の提供を受けた。サロンの特徴を見るため、新規参加者は1サロンのみの参加者を主に用い、複数個所参加者は別に集計した。関連要因としての継続参加者の参加割合の集計の際は複数かどうかを問わずに集計した。すでに地域組織へ参加していると新規参加が少なくなることが考えられるので、すでに地域組織に参加している割合もあわせてみた。

なお、本研究は星城大学研究倫理委員会の承認(2015C0013)後に実施した。

C. 研究結果

1) 「脳トレ」の有無と高次生活機能

8つのサロンのうち、脳トレ「あり」のサロンが4会場、脳トレ「なし」のサロンが4会場であった。結果を表1に示した。目的変数とした高次生活機能の3項目の変化はどれも小さく、脳トレ「あり」サロンの新規参加者で機能を維持できなかった者はいなかった。脳トレ「なし」の新規参加者では、「年金などの書類が書けるか」で4人、「請求書の支払いができるか」で1人が機能を維持できていなかった。

2) 新規組織参加

図に各会場新規参加者における、各組織の既参加・新規参加割合、表2にサロン継続参加者の地域組織参加割合を示した。ボランティアの会は既参加者が一定数みられた。継続参加者のボランティアの会参加割合との関係はみられなかった。老人会は既参加者が少なく、北山会場以外で新規参加者がみられる。継続参加者の老人会参加割合との関係はみられなかった。スポーツの会の新規参加者は馬場、大足以外でみられた。ある程度サロン新規参加者のサンプル数があるところで見ると、町内会参加者は下門会場の新規サロン参加者で増加し、大足会場の新規サロン参加者で増加していない。サロン継続参加者の町内会参加割合を見ると、下門は16.7%、大足で7.0%となっている。趣味の会は既参加者割合が高く、東大高、下門、玉貫会場で増加している。

D. 考察

高次生活機能については、脳トレ「あり」サロンの新規参加者で機能を維持できなかった者はおらず、脳トレ「なし」の新規参加者で維持できなかった者がみられるという分析結果となったが、維持できなかった者の数が少なかったため安定した結果とはいえないと考えられる。地域組織の参加については、多くのサロン新規参加者で地域組織への参加者が増加しているものの、サロンの継続参加者割合との関連は明らかではなかった。サロン新規参加者のサンプル数を増やし統計的分析を安定させるため、他の時期のパネルデータも活用した分析が必要になると考えられる。

E. 結論

本報告では武豊町「憩いのサロン」の参加者を対象とし、参加するサロンによってプロセス（中間的な効果）に違いがあるかを探索的に検討した。いくつかサロン会場の違いによる新規参加者の高次生活機能や新規地域組織参加の傾向の違いを示唆するような結果が得られたが、今回用いたパネルデータの分析では、サンプル数が少なく頑健な結果とはいえないと考えられる。今後追加データを用いた分析が必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

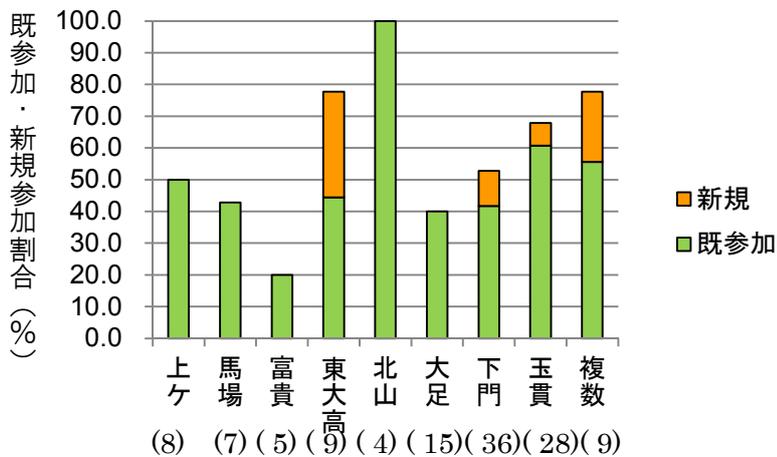
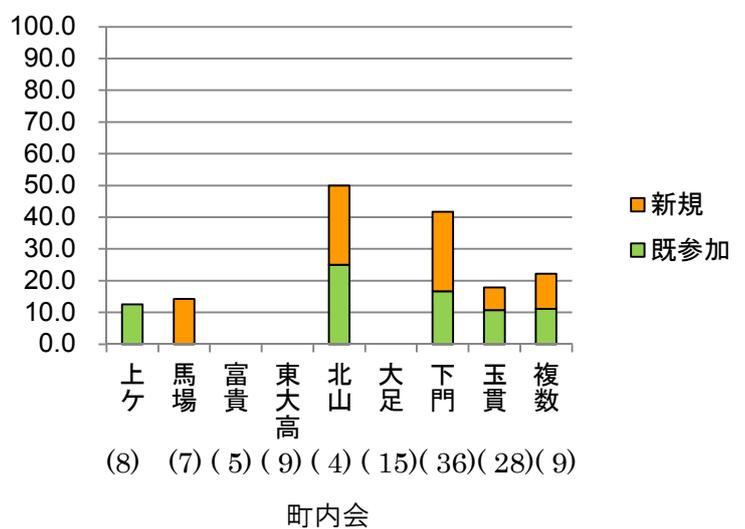
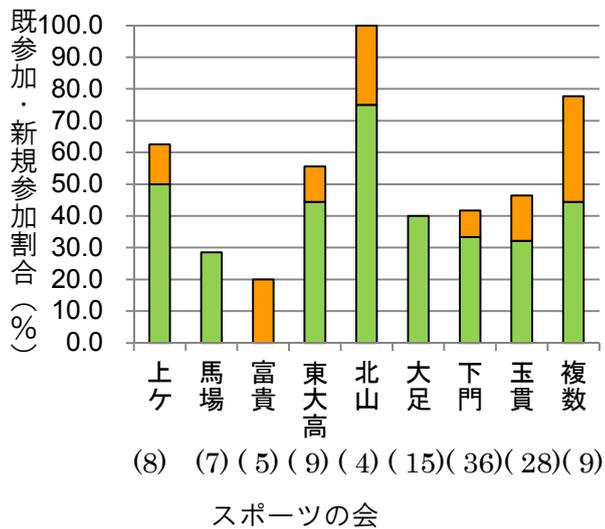
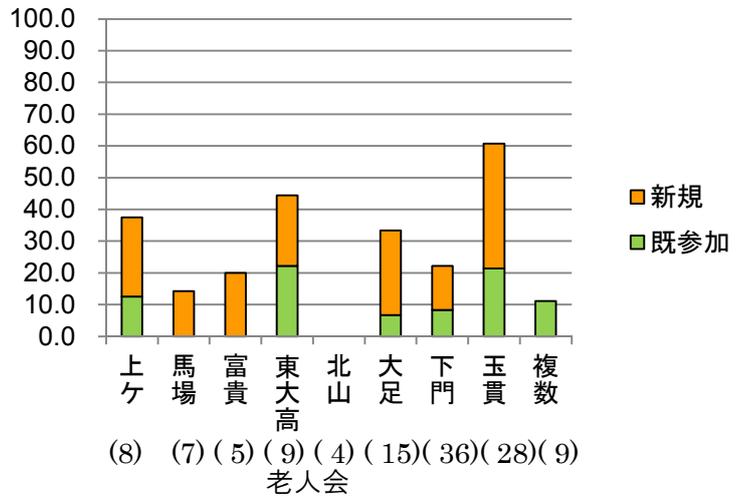
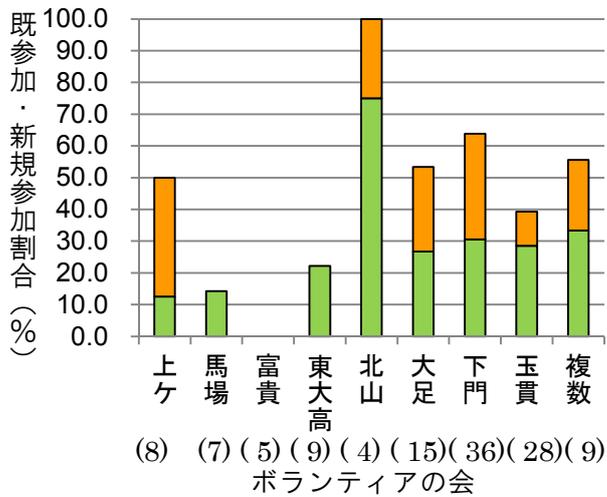
G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1 脳トレ有無と基本チェックリスト項目の変化

		請求書支払い			預貯金			年金		
		n	はい→いいえ 人数	割合(%)	n	はい→いいえ 人数	割合(%)	n	はい→いいえ 人数	割合(%)
脳トレ	なし	73	1	1.4	69	0	0.0	72	4	5.6
	あり	35	0	0.0	35	0	0.0	35	0	0.0

※2010年時の「はい」回答者数と回答の欠損により3つの目的変数によってサンプル数は異なる。



趣味の会

図 サロン別各地域組織の既参加・新規参加割合

表2 サロン継続参加者の組織参加割合

会場	ボランティア	老人会	スポーツの会	町内会	趣味の会
上ヶ	43.2	50.0	56.4	16.2	62.2
馬場	53.3	37.0	40.0	9.3	65.9
富貴	56.3	52.9	41.7	13.9	71.4
東大高	56.7	48.4	56.3	22.6	77.4
北山	72.7	57.1	47.6	20.0	82.4
大足	42.9	43.2	48.8	7.0	66.7
下門	40.0	62.5	53.3	16.7	69.2
玉貫	52.3	46.8	42.9	17.8	58.3